

## 標準化部会長の就任のご挨拶と JNSA への期待

KDDI 株式会社 運用統括本部 情報セキュリティ フェロー  
JNSA 副会長・標準化部会部会長  
中尾 康二



このたび、JNSA 副会長、及び標準化部会部会長として就任させていただくことになりましたKDDI株式会社の中尾康二です。JNSA への参加は今回が初めてですので、このような役職をいただき、十分な活動ができるのかが不安ではありますが、JNSA の皆さんと一緒にあって有益・有効な議論ができれば良いと思っています。

近年の情報セキュリティは、単純ではありません。セキュリティを提供する対象(国、インフラ、企業、個人など)によって議論・検討すべき技術、マネジメント、運用、教育などが異なります。以前は、交換する情報を単純に暗号化し、交換する相手と適切な認証を実施すれば、「セキュリティは確保できている」と思われている時代がありました。しかしながら、「リスクベースアプローチのセキュリティ」の導入により、その考え方が大きく変わるようになりました。

「リスクベースアプローチのセキュリティ」には2つの大きな視点があります。ひとつは、「何を守るかを明確にすること」であり、他方は、「適切なリスク低減を目標とする」ことです。例えば、企業の情報セキュリティを例にとると、「企業の情報資産」が守るものであり、「その資産の重要性、関連脅威、脆弱性を考慮したリスクを低減させる」ことが目標となっています。この目標を達成するために、ネットワーク技術、システム構築技術、運用技術、物理的管理技術などに関わる様々なセキュリティ技術が必要となり、さらに人材教育の充実、組織体制の確立、資産管理の徹底などのマネジメントを推進するための重要な活動が必須となります。最終的には、本リスクベースアプローチを計画・実施し、その有効性を評価した上で更なる改善を行うプロセスサイクル(PDCA)がもっとも重要とされています。

このような考え方は、一見当たり前のように見えますが、この考え方を定着させるためには多くの時間を要していることも事実です。上記のアプローチを提唱しているご存知のISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)は、英国の国内標準の策定から数えるとISOの国際標準になるまで10年以上の歳月を要しました。しかしながら、セキュリティの検討はこれで終わったわけではありません。逆に、始まりです。多くのセキュリティに関わる活動の必要性が明確になった反面、それらの活動をどのように進めていけば良いかがよく分からない、いわば混沌とした状況に突入しています。

このような状況に鑑み、JNSAの活動はこの混沌状況を打破する原動力となります。いろいろな業種の専門家が集まるJNSAは、多くの経験をベースに知恵を出し合い、「本当に役に立つ」セキュリティガイドライン、ベストプラクティスなどを導出していくことが可能だと思います。これらの成果をうまく導出することができれば、国内だけでなく、国際的な貢献にも繋がるものと信じます。私も微力ではありますが、JNSAの活動を皆様と一緒に盛り上げ、議論・検討に尽力していきたいと思っています。今後とも、皆様のJNSAへの積極的なご参加(特に、標準化部会へのご参加)を何卒よろしくお願い申し上げます。